

どうして、このようなまちづくりが出来るのかお伺いしたところ、将来を見据えて1976年に、市民の手で「明石コミュニティ仲間づくり銀行」を結成し、長い時間をかけてコミュニティを図り、自治組織や福祉・環境等の活動団体だけでなく、漁業、農業などの生産者や事業者の多くの市民と緻密にコミュニケーションを取りながら、魅力のある将来を夢見る明石のまちづくりを創り上げてきたという。2012年からは、既存自治組織に変わる「協働のまちづくり推進組織（まちづくり協議会）」による地



域自治の推進は、明石市内28カ所の小学校内に設置され、住民による地域自治まちづくり計画を策定しながら各校区の地域課題・問題解決に向けた活動を活発に推進している。これを支えているのが、誰もが個性を活かしながら、自分らしくその役割を発揮し、社会の一員として参画し、活躍することをサポート、プロデュースしている2011年に設立された「公益財団法人明石コミュニティ創造協会」です。この法人が行政と住民の仲立ちを行い、裏方で黒子として諸活動していて、いわゆる中間支援センター的な役割を果たしています。

住民が主体で、行政とパートナーとして自治運営している明石市は、全国一の先進的で素晴らしい内容であり、感心した研修会であり、中身がありました。私は、現在高崎市中室田町の会長（大字主任）を担当しておりますので、この取り組みを、少しでも、時間がかかっても、導入できたらと思っています。

群馬県地域政策課 安立 享平

■ 11月9日（1日目）

○ TTT（公園内にあるカフェ）について

明石公園（兵庫県立）のパークマネジメントの一環で始まった施設。囲碁のイベントをはじめ、B-1グランプリの全国大会も行われる予定。

○ 明石コミュニティ創造協会について

地域づくりの中間支援機構であり、明石市内にある28の小校区単位で作るまちづくり協議会等の地域づくりに関するお手伝いをしている。

明石市は、東経135度の日本標準時刻子午線が通っている。明石市立天文科学館やタコやタイが有名で、ふるさと納税で明石だこの保護もしている。駅とバスの多さで移動の便利さを売りに子育てを核にしたまちづくりをしている。全国に先駆けた施策も多く、まち全体でみんなにやさしいまちづくりを行っている。そのため、市民の愛着や住みやすさが9割を超える。今後はSDGs（持

続可能な開発目標）を意識したまちづくりをコンセプトにして様々な施策を進める予定。

○ 市内で活躍する方の活動紹介

① あかし玉子焼広め隊

明石焼きの正式名は玉子焼き。たこ焼きよりも歴史は古い。まちの勝手な応援団として「明石のまち」を元気にするために活動を行っている。「まちおこしは人おこし」であり、この活動を通じて出会った人たちが活動を共有することで、仲間となり、「縁」が「円」となってまちを元気にしていくと考える。

② ボランティアはなぞの

阪神淡路大震災を契機に「地域に根ざし、地域とともに」を合い言葉に活動。平成29年には拠点施設をオープン。地域で支え合う仕組み作りのための研修や相談会、ヘルパータレント事業、地域食堂、イベントなど多岐にわたって